

【特集】

育む2

文系2研究科の取り組み

三重大学の地域貢献をリードする
文系大学院の教育

CONTENTS

【View of This issue】

人間を育てる文系教育への期待

● 理事・副学長 | 亀岡孝治

01

【特集 / 学長・学部長・副学部長座談会】

育む2

文系2研究科の取り組み

三重大学の地域貢献をリードする
文系大学院の教育

● 学長 | 豊田長康

● 副学長 | 山田康彦

● 人文学部 | 井口 靖

● 人文学部 | 森 俊一

● 教育学部 | 丹保健一

● 教育学部 | 伊藤彰男

| 司会 | 理事・副学長 | 森野捷輔

02-05

【RESEARCH FRONT 1】

ウズベキスタンを舞台に

行政における「日本モデル」を発信

● 人文学部教授 | 樹神 成

06-07

【RESEARCH FRONT 2】

歴史から現代社会を考える視点を獲得し、
現代の諸問題を考察する

● 教育学部教授 | 東 晋次

08-09

【RESEARCH FRONT 3】

新しい食資源、医薬用資源として

海藻の機能の人々の健康に役立てる

● 生物資源学研究科教授 | 天野秀臣

10-11

【RESEARCH FRONT 4】

多様な学習形態を実現する

空間づくりを研究

● 工学研究科教授 | 今井正次

12-13

【CLOSE-UP Interview】

地域の疾病の原因究明が、
世界の神経難病への新たな光に。

● 医学系研究科教授 | 葛原茂樹

14-15

【TOPICS】

日本機械学会「流体工学部門賞」を受賞

「Certificate of Merit」を受賞

2006年6月～11月

三重大学の主な出来事

16



人間を育てる 文系教育への期待

理事・副学長(情報・国際交流担当)

亀岡孝治

国立大学法人に姿を変えた三重大学も、無事にその最初の3年間を終えようとしています。国立大学法人の生みの親である小泉内閣はその任期を終え、安倍内閣に交代しましたが、この交代の前後に垣間見えてきた倫理体系が崩れつつある日本の実態は、実は国立大学法人にも少なからず暗い影を落としています。

日本中に蔓延する、倫理観・義務感・想像力・責任感・批判精神・歴史観・国際感覚の喪失。「日本には技術があってもシステムがない」「世界標準とよく似たシステムはあっても魂が入っていない」などなど、最近の日本でさまざまな形で生じている文系力喪失が引き起こす事件は、グローバル市場における採算性重視教育の産物といっても過言ではありません。

このような土壌の上で私たちが「地域社会へ貢献できる高度専門職業人」の育成を考えなければならないのだとすれば、高度な専門教育の前にまずなによりも「高度な人間になる」ための教養教育・文系教育が必要なのです。

マーサ・ヌスポム氏(シカゴ大学法学部哲学教授)は、「人を便利な機械に変えるのではなく、人を育てる教育」の必要性を説いています。そのためにできることは、まず自己あるいは自国を客観的に捉える方法を学ぶことでしょう。一つは時間軸で相対化する方法、もう一つは異なる空間から眺めて相対化する方法です。前者の一例が「歴史に学ぶ」ことでしょうし、後者の一例が「海外から眺める」こととなります。このような学生の「内なる目」の育成を併せて行う、本当の意味での歴史教育、国際教育という文系教育が、今、必要とされています。健全な倫理観・義務感・想像力・責任感・批判精神・歴史観・国際感覚を持つ人間を創り上げるための「三重大学の文系教育の新たな体系化」。私たちは今、このことの意味を真剣に考える時にきているのではないのでしょうか。

かめおかたかはる
農学博士
専門分野は、生物情報工学
1955年生まれ

